

# 黒高だより

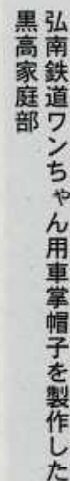
黒石高校 教頭 佐々木

陸奥新報 社説 2022年3月18日  
(情報デザイン科) →

東奥日報 2022年3月17日  
(情報デザイン科) ↓

い。 自家用車の普及などで鉄道の利用環境は厳しいものがあるが、その中であつて高校などの通学利用は大きなウエイトを占めるだろう。こうした通学利用も多い高校生の考え、発想を生かした商品開発やPR広告が数多く発信されることは、若年層が鉄道利用に目を向けることの一助となるのではないか。また高校生たちにとつても、自分の作品やメッセージが鉄道を通じて、地域社会の目に触れる機会となるだけに励みになることだろう。

学校と地域公共交通という、地域になくてはならない資源が今後ともさまざまな連携を行い、この津軽地方にさらなる活力を与えることを願ひ、地域社会全体で応援していきたい。



サイズは小、中、大の3種類

大谷陽彩ひいろ)さんは「手縫いの作業を担当した。想像以上に難しかったけど、楽しんで作ることができた」と感想。村岡李々花(りりか)さんも「より多くのワンちゃんにかぶってほしい。赤いメッシュ部分にラインを縫い付ける作業を頑張った」と振り返った。

帽子の貸し出しはワニカムの売店で行っている。当日はインスタグラム写真用の撮影フォトフレームも合わせて貸し出す。弘南鉄道本社業務部の中田正志営業課長は「とてもかわいらしくてパツチリな仕上がり。商品として販売されていてもおかしくない。一生懸命に作ってくれたのが伝わると絶賛。次回の貸し出しは5月7、8日を予定している。

黒高家庭部の對馬渾乃(り)さんは「帽子をきっかけにして弘南鉄道を利用する人がもつともつと増えてくれればいい。今度はペット用の制服も作ってみたい」と意欲。佐藤部長も「実物と見分けがつかないくらいに上手にできた。ワンちゃんも喜んでくれるはず」と笑顔を見せた。